

学校現場の課題に 応えるために

教職開発講座 准教授 粕谷 貴志

■あなたはどのタイプですか？

「朝、少し離れた所を歩いていたら友達に『おはよう！』と声をかけたら、そのまま行ってしまった。その時あなたはどのタイプですか？」

タイプ1…追いかけて行って「何ぼんやりしてんの？おはよ！」と言う。

タイプ2…まあいいかあ、とそのまま。

タイプ3…ひよっとして怒ってる？私、何か気を悪くさせるようなこと

したかな…と一人反省会。

授業で学生たちに聞くと、ちゃんと3つのタイプに分かれます。どのタイプでもその人の良さにつながる場所があり、普通特に問題になることはありません。その根底に、「そこそこ価値のある自分」「人は心えてくれるもの」と思える自己や他者への信頼感があれば良いのです。

このような個人差は、これまでの人との関わりの中で逃げてきた、心理社会的発達の一側面を表していると言われます。

■近年の学校現場の課題とは？

近年多くの学校が、不登校やいじめ、学級崩壊、学校の荒れ、非行など多くの課題

に直面しています。私は、児童生徒の心理社会的発達を捉える内的作業モデルに焦点を当てて、これらの問題の要因や解決のために必要な、心理教育的援助を明らかにする研究をしてきました。これまでのところ、近年の学校現場の問題とつながる児童生徒の変化は、地域や家庭の変化の影響を受けた心理社会的発達の問題を含んでおり、学校はその変化への対応を求められていること。そして、成果を挙げている学校は、既に現在の児童生徒の発達の課題に応える実践を行っていることなどが見えてきています。

所属する教職大学院は、現在の教育課題に対応できる、実践的指導力の育成に取り組んでいます。私自身も、現在の教育課題の解決につながるような、現場に役立つ研究ができればと思っています。



連携協定校での実習の様子

大学レベルの英語

英語教育講座 講師
パーキンス・ロバート

■伝統英語教育の局限性

大学レベルの学生は、既に伝統的な常設英語教育を少なくとも6年間も受け、さらに早い段階で英語教育を受けた人も少なくないと思います。しかし、これほど語学学習をしたにも関わらず、多くの学生はまだ、英語の基本的な会話レベルにも達していません。

問題を解決するための従来の教授方法だと、単にテストや教科書を増やし、語学学習を現実世界からさらに離れる方向に持っていきます。これは、今の学生たちが語彙力を持ちながらも、簡単に方向を聞く質問さえできない現状を作り上げた、失敗と言えるプロセスの続きとしか思えません。

大学レベルの学生は、英語に精通できるようなツールを持っていきます。しかし、どの言語でもそうですが、本当にマスターするためにはもつと日常的に、校内・校外ともに多く使用し続けなければなりません。

■関連性を重視する

本日のコミュニケーションは、例文の型にはまるのがめつたになく、もつとばらばらでもつと複雑で、混乱していきつたります。だから、もし学生たちがもつと実用的な方法を見つければ、今までの抽象的な学習世界から、本日の現実世界へ踏み入ることができるよう。

現代の教育事象を 社会学する

学校教育講座 准教授
渋谷 真樹

■ゼミの風景

教育社会学の研究室では、毎週月曜日の午後1時にゼミを行っています。中には、多文化共生社会に向けた教育の現状やあり方について研究している学生がいます。在日コリアンや留学生としての経験を踏まえながら、外国につながる子どもたちを支援する、地域の教育活動を調査しています。

また、大学教育について研究している学生もいます。大衆教育社会学の大学教育の意義や、教員養成大学における大学と職業との連関など、本学にとつても重要な課題に、学生の視点から取り組んでいます。

■卒業生・修了生の今

卒業生や修了生の多くは、小学校の教員になっていきます。和歌山県に関しては、二年連続で教員採用試験に合格者が出たことが研究室の自慢です。

先日、卒業生が訪ねて来てくれました。アメリカの高校を卒業したおしゃれな彼は、校則を巡る生徒指導について、中学校の先生方にインタビューをして卒業論文を書きました。そんな彼が今は、授業中はジャージで、時折隣の教室にも響き渡



話し手が話し、聞き手が聞いて、それに関連する質問をして、言葉の意味を確かめます。流暢とは、辞書や教科書やインスタグラムに頼ることなく話をし、意味のある質問をしつづつ答えを消化し、またそれに反応していくことなのです。

■より良いテクニック、より良い結果

学生たちが英語と接する時間は、週一回の90分のクラスだけでは不十分過ぎです。時間を延ばす有効な方法の一つとしては、効率の高いデジタルテクノロジーを駆使して、学生たちのために英語スピーキングフォーラムを作成し、もつと便利かつ実用的な情報交換を実現することです。

この方式を用いることで、学生たちの語学スキルが高められ、それを現実世界で活かせることに彼らは感心するでしょう。この方式の最終効果としては、学生たちに生きた英語へのアクセスを広げることができ点です。デジタルテクノロジーが伝統的な教授方法と融合する時に、英語はもう概念ではなく、現実となるのです。

教育現場に 生かせる実践力を

教職開発講座 講師 松井 秀史

■新たな学びのスタート

高度な専門性と実践力を兼ね備えた教員の養成を目指し、教職大学院がスタートして二ヶ月余り。多彩なカリキュラムやデジタルポートフォリオの導入などにより、院生の皆さんは、これまでとはひと味違う学びに積極的に取り組んでいます。

私の担当する「学校組織とアカウンタビリティ」では、学校組織のあり方や学校教育の現場で起こり得る、子どもたちに関わるさまざまな課題について、国の施策の方向性も踏まえながら、議論やプレゼンテーションなどを通して、アカウンタビリティを果たすための実践的な手法を研究しています。

受講されているのは五名の現職教員院生の皆さんで、課題意識をしっかりと持たれており、その重みを感じながら授業を進めています。

■分析力・発想力が実践力を高める

授業では、事例を通して学ぶことを大切にしていきます。院生の皆さんには、どのような事象であれ、それぞれの事象には固有の背景があることを認識し、多面的に分析を加えながら、「自分ならどうするだろう



授業風景

か」など、個別に具体的な対応を考え、提案することを求めています。その際、子どもたちと保護者、地域の方々の視点を踏まえることを共通理解としています。

このように私の授業では、何らかの課題に関して、常に「どう考えるか」から始まって「自分ならどうするか」について具体的な方略をまとめ、ポートフォリオに記入することになっています。

院生の皆さんには、こうしたことを積み重ねることによって発想力を高め、どのような問題にも対応できる応用力・実践力を身に付けていってほしいと思っています。



ゼミの風景

る大声で、子どもたちを指導しているとのことでした。

■教育社会学から教室へ

教育社会学は、一見教育の現場や実践からは遠い印象があるかも知れません。しかし、現代社会における教育の現象を社会の中に位置付けて捉える視点は、子どもに向き合い、明日の授業の準備に追われる日々の中でこそ、生きてくるのだと考えています。ホットな心とクールな頭をもつて、責任をもって教育に携わっていく研究室でありたいと思っています。